

# 委員会会議録

(一社)滋賀県トラック協会

会議名	平成27年度 第2回 適正化事業運営委員会
開催日時	平成27年8月28日(木) 14:00~16:15
開催場所	滋賀県トラック総合会館 3F「研修室1」
出席者	委員:12名、(欠席4名) 事務局:5名(欠席1名)

## 協議内容

司会 富山事務局員より、本年第2回目の委員会開催の挨拶あり。  
委員欠席4名、事務局石見次長は大阪にて会議出席により欠席の旨報告。

### 挨拶

田中本部長より挨拶。7月、8月の2ヶ月は協会としての大きな事業は無かったが、9月から11月にかけて事業が多く協力依頼あり。

外村委員長より挨拶。6月11日以来2ヶ月半ぶりの2回目の委員会である。適正化委員会は大事な事業であるので活発な意見交換を望む。

引き続き、外村委員長の議長進行により議事に入った。以下事務局より議題に基づき資料説明がされた。

## 2. 議題

### (1) 平成27年度適正化事業実施状況について

滋賀県内貨物自動車運送自動車運送事業者は794事業者で、事業所数は894店と増加傾向にある。また、巡回指導結果については、26年度対比で点呼の実施、乗務記録の作成、初任・高齢者の教育、適正診断・健康診断等改善傾向が見られる。

運輸安全マネジメントセミナーについては、6月22日に開催し61名の受講者が参加した。

第1回トラック輸送における取引環境・労働時間改善滋賀県地方協議会については、7月27日に開催され、17名の協議会委員により発足され座長に浜崎氏が選任された。協会関係者で5名の参加委員が現状を訴えた。

・田中本部長 大阪での会議に参加してきた。長時間労働の問題はハードルが高い。少子高齢化が加速しており若年労働者は運輸業界に集まらない現状があり、規制緩和以前と以後でドライバーの収入も大きく変わっている。また収受運賃等荷主間で考えに大きな隔たりがある。結論がなかなか出せない大きな問題である。

・委員 人と運賃の問題に左右されるだろう。  
運輸関係者が中心となって現状の話を進めて行きたい。

・委員 我々の業界も荷主に断る勇気がないと、運輸業界としての将来はないだろう。労働時間の改善は難しい。

平成27年度Gマーク申請状況については、会員119、非会員7の126事業所の申請を受け付けた。内訳として新規36、更新90である。

27年度の新規目標30事業所に対し、認定事業拡大に向けての取組みとして申請案内説明会を開催し、巡回指導時のPR、個別説明会の実施(14事業所)、支部単位・女子部会での説明会等を積極的に実施した。

・田中本部長 Gマーク取得率が高くなってきた。300事業所を目標にしていたが、27年度でクリアできそうである。

・委員 初回・2回・4回と更新毎に同様な書類を提出しなければならず改善する必要があるのではないかと。国土交通省・トラ協に簡素化を要望する必要あり。

・委員 Gマークに対するインセンティブが必要である。軽油引取税・保険の割引・フェリー割引等のコスト削減に連動する国からのインセンティブも必要ではないかと。Gマークのグレードを上げる策も必要である。

## (2) 当面の取り組みについて

事業用自動車運転者の健康管理にかかるセミナーについて

10月2日 バス協と共催で開催

議題 運転従事者における脳MRI健診の意義

平成27年度Gマークラッピング車協力事業者について

・事業者 (株)外村物流運輸

・9月27日 事故防止総決起大会後会館前にて出発式

## (3) その他

・運輸支局長等からの指導要請に基づく乗務時間等告示違反営業所に対する巡回指導指針についての説明

・自動車運転者の労働時間等の改善のための基準に係わる関係通達の一部改正について説明(フェリー乗船時の拘束時間及び休息期間の改定)

次回開催 平成27年10月21日(水)  
10:00～ 彦根トラックステーション会議、  
13:00～ ビジネスメッセ視察(米原)